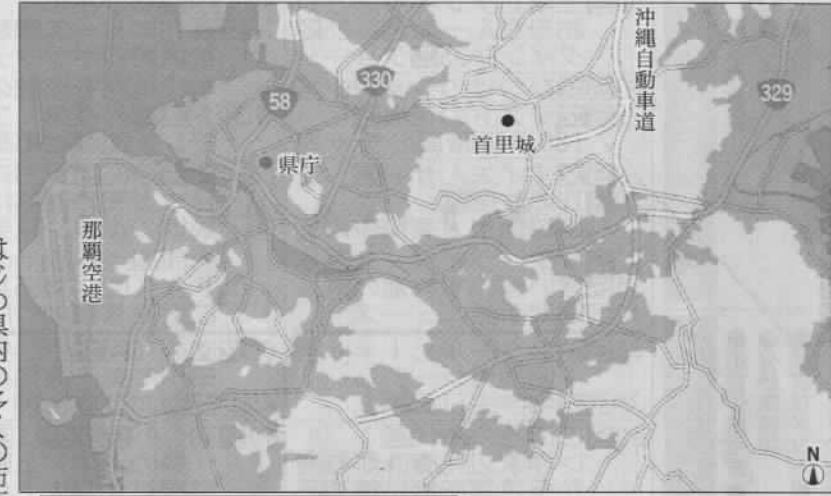


# 那覇市街地は水没

## 10m超なら 仲座琉大教授ら予測 本島の一部横断も



10m超えの津波の県内到達予測 (琉球大学・仲座栄三教授まとめ)



仲座栄三教授

はじめ県内の多くの市街地が水没するほか、内陸深く入り込み一部で本島を横断する恐れもある。仲座教授は「身近な逃げ場所を再確認してほしい」と呼び掛けている。

最大10mを超えたとされる東日本大震災の津波だが、沖縄本島で同様の津波が来た際の到達予測を琉球大工学部の仲座栄三教授(防災学)らがこのほどまとめた。那覇市を

# 「身近な逃げ場所確認を」

地は考慮しない。予測によると、那覇市の国場川北岸で残るのは城岳小学校周辺と新都心の一部、首里、識名などにとどまる。那覇市近郊でも川や国道329号に沿って津波がさかのぼり、与那原町まで横断。うるま市石川から恩納村仲泊、名護市港から同市羽地もつながるぎりぎりまで津波が押し寄せると。また豊見城市豊崎から糸満市西崎、中部でも北谷町美浜や沖繩市泡瀬からうるま市洲崎などの埋め立て地一帯も水没する予測だ。石油備蓄基地のある西原町など中南部の東海岸沿岸も大きな影響を受け可能性がある。

仲座教授は「低地に沿って津波はさかのぼってくる。海が見えない内陸だからと安心すべきではない。自分がどんな所に住んでいるのか、どこに逃げるべきか認識する必要がある」と指摘。また「現在は本島では波の高さが2m程度の津波を想定して防災計画を立てている。だが今回の津波や過去にあった『明和の大津波』も踏まえれば、10mを超えた津波を想定してよい。防災計画を見直す必要があるのでは」とした。

# 津波 沖縄にも警鐘

## 東日本大震災時 県内到達

琉球大理学部の中村衛准教授(地震学)はこのほど、東日本大震災に伴う津波の県内での到達状況について本島と周辺離島の17漁港で聞き取り調査を実施。その結果、うるま市石川漁港で最大10.9mを記録した可能性があることが分かった。沖繩気象台が発表した宮古島での最大7.0mを上回った。中村准教授は「湾の奥は波が高くなりやすい」と周辺環境の点検を訴えた。

# 石川漁港で10.9センチ

## 中村琉大准教授 県内17漁港調査



中村衛准教授

協関係者らに聞き取りした。その結果、関係者が写真を残すなど正確性が高い石川漁港で3月11日午後7時ごろに10.9m、泡瀬・夜明橋で同午後6時すぎに10.4mの津波が来た可能性を指摘。いずれも干満の影響を差し引いた数値だ。電源開発石川石炭火力発電所(うるま市石川赤崎)

# 「湾の奥高くなりやすい」

予想より大きな津波が来る可能性があり「今回は水位が低いときに津波が来たため氾濫することはないが、今後避難所の再点検など対策が必要になる」とした。

中村准教授は3月15〜18日に、東村川田漁港から南城市奥武島漁港まで県内17カ所の漁港などを訪ね、漁